

CONTENTS

自作自演171 三輪 豊・黒野有一郎・濱田輝雄・出口基樹 2

第5回 これからの都市計画とまちづくりを考える
地域まちづくりと都市デザイン提案 村山顕人 4

第2回 木とながくつきあう
木材と水分、膨潤・収縮 石山央樹 6

JIA 東海支部通常総会 記念講演会 芦原太郎JIA会長「JIAのこれから」 鈴木慶智 8

JIA 静岡発 「みやぎボイス 震災復興シンポジウム2013」報告会
復興計画、平時から行政と連携し準備を 尾林孝雄 9

JIA 愛知発 素材を訪ねる旅 シリーズ第6弾「左官」
「伝統左官技術の多様性と可能性」 宇野勇治 10

「建築家会館」JIA 本部レポート 吉元 学 11

速報! 第20回JIA 東海学生卒業設計コンクール 公開審査結果 吉川法人 12

速報! 第1回JIA 東海住宅建築賞 第1次公開審査結果 生田京子 13

Chu-bura JIA 愛知 住宅研究会 生津康広・吉元 学 14

▶東北からのメッセージ
地産地消のエネルギー社会を目指して 進藤勝人 16

Bulletin Board 17

神言神学院のコンバージョンに参画して 谷口 元 18

保存情報 第140回 天狗総本店 中澤賢一 20
四郷郷土資料館(旧三重郡四郷村役場) 坂本 悠 20

理事会レポート 小田義彦 21

東海支部役員会報告 鈴木利明 22

東海とっておきガイド⑤⑥愛知編 齋藤正吉 23

地域会だより 23

協力会通信⑦ 神谷勇雄 24

編集後記 藤橋盈好・石川英樹 24

映画の中の建築 ④

ヤマトインターナショナル



時はバブルの絶頂期、映画「マルサの女2」(1988年、伊丹十三監督)は新興宗教法人を隠れ蓑に暗躍する地上げ屋とマルサ(東京国税局査察部)との対決を描いている。その国税のオフィスとしてヤマトインターナショナル(1987年、原広司設計)が現れる。どうしてお堅いイメージの国税の建物がヤマトインターナショナルなのか不思議だった。今、改めて見直してみてもこんなことを思った。地上げ屋の頭目(三國連太郎が怪演!)は「俺たちはお偉いさん方ができないことを国のためにやってんだよ!」と凄む。伊丹監督はバブル期をおもしろおかしく描きながら、政財界を含む日本の官民癒着の体質、構図を糾弾していく。さすがゴミを埋め立ててできた夢の島に砂上の楼閣のように建つヤマトインターナショナルを国税に見立て、新興宗教と同じ実体の希薄なものとして描くことにより、バブルに蠢くオール日本人を描きたかったのだろう。

それにしてもヤマトインターナショナルは今見ても凄い。「天空の城ラピュタ」を彷彿させる威容を見上げると、あのバブル時代が懐かしく蘇ってくる。

光崎敏正 | 愛知地域会





三輪 豊 (JIA静岡)

合同会社 針谷 (静岡市駿河区小黒3-6-9 TEL 054-281-1410 FAX 054-282-5502)

旅とウォーキング2

引き続きJR青春切符や格安切符で旅とウォーキングを楽しんでいる。誰に気兼ねなくすべて自己責任の気ままな一人旅にはまっていたが、女房への気兼ねか道連れも女房に固定化してきた。

コレステロール、中性脂肪の数値は、薬の服用にウォーキングを絡めて限りなく安定しているのに、あちこちを訪ね歩く放浪癖？は止むどころかますますとどまるところを知らない。

旅の途中では必ず相当の距離を歩くようにしている。天竜峡の真夏のウォーキングでは炎天下、不覚にも脱水症状に襲われ道端にへたり込んだ。

関宿と伊賀上野を訪ねたときは、街並みを楽しむどころか変なオッサンに付きまとわれ閉口した。

高山線の電車内に携帯を置き忘れるヘマも経験した。

この春、海辺の水平線からそそり立つ立山連峰を見ようと訪れた富山県高岡の雨晴海岸では、その絶景を春霞が覆い尽くし見事に肩透かしを食った(ここは絶対に再挑戦と決めている)。

最近ではゴールデンウィークに東京に出掛け、ラ・フォルジュルネ音楽祭のオーケストラを社会人となった娘同伴で鑑賞したこと。東京国際フォーラムのほか、国内では金沢・新潟・びわ湖・鳥栖でほぼ同時期に毎年開かれているこの催しの魅力は、一流の演奏を低料金でいくつもプログラムをはしごできることとか。彼女は高校からチェロを、自分は中学、高校と吹奏楽を演奏した共通点やウォーキングを理由に、しばらくはこの催し通うことになりそうである。



黒野 有一郎 (JIA愛知)

一級建築士事務所 建築クロノ (豊橋市駅前大通3-118 TEL 0532-56-0170 FAX 0532-56-0102)

「建築家」を教える授業。

先日、地元商工会議所が、市内の中高生を対象に行っている「ビジネスパーク」という事業に講師のひとりとして参加した。この事業は、「民間事業者が講師となり、自身の職責や地域での役割、生き方などを伝えることで、中高生が仕事や将来について考えるきっかけを提供する」というもので、130名を超える講師が、市内15校で一斉に授業を行った。

僕は、母校の中学校で2年生のクラスを担当し、「建築設計」についての授業を行った。懐かしい校舎で、生徒34人を前に、NHKのTV番組さながら、緊張の授業であったが、「将来、建築家になりたいと思っているひとは？」と聞くと、数名の手が元気に挙がった。もう30年以上昔、僕が中学生だった頃には「建築家」という職業が“将来になりたい”対象として知るべくもなかったことを思うと、諸先輩の切り拓いて来た道のりの険しさを思い、感謝するばかりであった。

授業ではまず、建築家と建築士について話した。「家」のつく職業と「士」のつく職業について、建築士資格のことから、JIA建築家憲章にもふれた。具体的な住宅事例を基に、建物の建築される過程で考えなければならない多くの事柄を、師である野沢正光氏から教わった「difficult whole = 難しい全体」という言葉で伝えた。

後日届いた生徒からの手紙には、「建築は自らの手ではつくりたくないモノ」と言ったことが印象に残ったとあった。誰かに「伝えて」つくってもらわなければ具現しないことを述べて、建築のみならず、あらゆる仕事で、「伝える」ことやコミュニケーションが大切だと話したことが伝わったようで嬉しい。

最後に陶芸家・河井寛次郎の「仕事が仕事をしています」という一編の詩を贈ったが、こちらは伝わただろうか？



濱田 輝雄 (JIA 愛知)

浜田都市建築事務所 (名古屋市熱田区旗屋2-21-25 TEL 052-682-3861 FAX 052-682-3891)

桜を観る京都滋賀への旅

今年の春は、例年より寒暖の差が大きく、桜も例年より早いのかと思いつつ、比叡山、三井寺の桜を観に行くことにした。その後、有馬温泉から近江商人の町並みを観ながら水郷の船遊び?と最後は、彦根城を観て帰ることとなった。

比叡山の桜は、ちょうど見頃であった。何年ぶりだろうと思いつつ、国宝根本中堂の本尊薬師如来像と開創以来1200年間消えることなく灯り続ける「不滅の法灯」を拝顔した。「一隅を照らすこれ即ち国宝なり」と言う開祖最澄の納経帳を手に阿弥陀堂など7か所で御朱印を頂くと、俗世から身を清められたと思ってしまう。

境内には、春秋に富む?と思われる中高生が修学旅行なのだろうか賑やかに散策していた。三井寺は、総本山園城寺三井寺と呼ばれ天台宗門の総本山である。この桜は有名なのだが、今年はずでに散っていて葉桜であった。国宝の金堂は、桃山時代を代表する建築であり、重要文化財の三重塔は、室町初期の建築である。この寺にある建築物は、仁王門、釈迦堂、鐘楼などすべてが重要文化財の宝庫だ。仏教の言う「因果具時」の比喩の象徴である蓮の花が、これから満開に咲く準備をしているかのように池に群生しているのが印象的であった。



左から | 比叡山根本中堂前 阿弥陀堂 三井寺金堂
三井寺五重塔



出口 基樹 (JIA 三重)

日新設計 (津市万町津173 TEL 059-227-7421 FAX 059-225-7854)

「F1」

「F1」が好きです。そう、自動車レース最高峰のF1 (フォーミュラ1) のことです。スポーツにはあまり興味がないのですが、なぜかF1だけは全戦観戦しています。どこが好きなのか、改めて考えてみようと思います。

まず、世界各地のサーキットを転戦するのが良い。自分もその場にいるような錯覚を起こします。特に好きなのはヨーロッパのサーキットで、なかでもモナコグランプリが最高です。それと、ドライバーがどれほど優れていても、速いマシンがなければ勝てない。ここもポイントです。チームはスタッフ全員で速いマシンを設計・開発します。オーナーやスポンサーはその莫大な開発費用を負担します。ドライバーは才能をアピールし、強いチームに移籍していきます。この辺りは駆け引きや政治的な要素もあり、ストーブリーグも興味つきません。



ステップドノーズ

あと、毎年のように改正されるレギュレーションの存在も見逃せません。強いチームが勝ち過ぎないように、レースが面白くなるよう、安全性が向上するよう、などの理由で変更されます。各チームは変更にも最適化できるように努力し、その結果さまざまな素晴らしいアイデアが生まれています。2012年シーズンは、安全性への配慮からステップドノーズ (段差ノーズ) といわれるスタイルが流行しました。マシンは速くなるのですが、恰好悪かった。すると、2013年シーズンには、安全性は保ったままステップドノーズをなくせるレギュレーションに改正されたのです。これは、速さや安全性があっても美しくなければF1ではないことを改めて知らしめることになりました。そう、建築と一緒になのです。機能や構造が優れていても美しくなければ建築ではないのです。

これからの
都市計画と
まちづくりを
考える ⑤

村山 顕人 — 名古屋大学大学院環境学研究所 准教授

地域まちづくりと都市デザイン提案

地区スケールの プランニングへの期待

「地区スケールの計画」というと、都市計画法に基づく地区計画や市街地開発事業などの基本計画を思い浮かべるかも知れませんが、ここでは「都市空間の構想・形成にかかわる住民、地権者、事業者、企業、政府、非営利活動団体などの多様な主体が共有する地区の将来像とその実現に向けた実行計画」という広い意味で使います。本連載第2回で紹介したポートランドの「エコディストリクト」は、地区スケールのハードおよびソフトのプロジェクトを通じて環境負荷の小さい都市をつくる取り組みでした。第3回のストリートウッドデッキは、錦二丁目のまちづくり構想とその策定過程があっこそ始まった挑戦です。第4回では、地区スケールの減災まちづくり計画の策定がレジリエントな都市圏の空間計画を検討するための重要な構成要素として位置づけられていました。このほか、歴史、住宅、交通、環境（低炭素・生物多様性・水循環）などの分野でも、地域を構成する多様な主体の協働による地区スケールの取り組みに期待が寄せられています。さまざまな地域での試行錯誤が続いています。

地域まちづくりと空間デザイン

2011年4月に地域の地権者・事業者で構成される錦二丁目まちづくり連絡協議会（名古屋市中区、2013年度から「錦二丁目まちづくり協議会」）によって採択された「これからの錦二丁目長者町まちづくり構想（2011-2030）」（図1）は、①問題・課題、②まちづくり方針（元気経済・共生文化・安全居住）、③実現のための行動提起、④まちづくり実現の仕組みが示された地区スケールの計画です。建築・都市計画・交通などの専門家を含むマスタープラン作成企画会議が、地域の多様な主体と対話を重ねながら3年以上もかけて作成しました。計画には、16街区の土地利用や公共空間整備の方針、さらには小規模再開発のイメージなどの「絵」が含まれています。これらはとても抽象的なので物足りなく思うかも知れません。しかし、現時点で

地域の皆さんが概ね合意している内容は、それらの「絵」で示されている程度の抽象的な将来像なのです。その将来像に沿った建物や公共空間のデザインは幾通りもあり、今後、具体的な施策を展開する中で、さまざまなデザイン案を検討していきます。

名古屋市の西築地学区を中心とする名古屋港周辺地区でまちづくり事業を展開している住民・行政協働の港まちづくり協議会は、2012年度末に「み（ん）なとまちのVISION BOOK」（写真1）を策定しました。これは、約10年後を展望しつつ約5年間で展開する事業の前提となる港まちの未来を描いたもので、「心地よく安心な港まちで暮らす」「魅力的でにぎやかな港まちに集う」「みんなと港まちを創る」という3つのテーマの下、とても楽しそうなイラストとともに、防災・減災、コミュニティ活動、すみやすさ、交流、回遊、埠頭の集客力、情報発信、呼び込み、協働などをキーワードとした合計9つのシナリオと「みんなとまちでなにする？」という見出しの下にさまざまな施策を提示しています。水辺空間の改善、空き物件活用、散策路の整備、魅力的な施設づくり、埠頭の空間づくり、案内サインの配置、まちの交流拠点の機能を持った事務所の整備などの施策は、今後、優れた空間デザインが求められるところです。

以上2つは、地域まちづくりの方針が概ね共有されていて、それを実現する施策において空間デザインが求められている事例です。それに対して、名古屋市名東区藤巻町（写真2）で始まった地域まちづくりは、その方針をこれから住民間で共有していく過程でさまざまな空間デザインの可能性を示す必要がある事例です。

約170世帯・400人が住む藤巻町は、長期未整備都市計画公園であり、現行の都市計画では15年後から25年後までの間に市による土地買収を



図1
これからの錦二丁目長者町まちづくり構想



左上：写真1 | 「み(ん)なとまちのVISION BOOK」概要版
 右上：写真2 | 藤巻町の風景
 左下：写真3 | 建築・都市設計ワークショップの成果発表
 (星ヶ丘駅周辺市街地の提案)

経て公園として整備されることになっています。しかし、多くの住民がこの町に住み続けることを希望し、また、市も実際は財政難で公園整備を容易に実施できないことから、住民有志が「住民と自然が共生する新しい里山づくり」を検討しています。住民が住み続けながら、市民参加型で里山を維持・管理していく考え方は、昨年度末からは市の地域まちづくりサポート制度のアドバイザー派遣を受けながら、住民間で町の将来像を共有するために、いくつかの代替案を検討する作業を進めています。何度も会議を重ねていますが、言葉のみのやりとりではなかなか町の将来像の共有に至らず、空回りすることもあります。

国際建築・都市設計ワークショップを通じた都市デザイン提案

2009年以降、私が所属する名古屋大学の建築学コースでは、毎年春(東日本大震災が発生した2011年を除く)、フランスのバリ・ヴァル・ドゥ・セヌ国立高等建築学校(ENSA-PVS)と合同で建築・都市設計ワークショップを開催しています。今年は、4月29日から5月3日までの5日間で「都市の活性化と減災に向けた駅を中心とする市街地の再整備」をテーマとしたワークショップを開催しました(写真3)。参加者(ENSA-PVSの大学院生13名および名古屋

大学建築学コースの大学院生・研究生17名)は、5つの国際グループに分かれ、それぞれ地下鉄東山線の池下駅、本山駅、東山公園駅、星ヶ丘駅、藤が丘駅を中心とする市街地を対象に調査・提案し、その成果を図面(A1判4枚)と模型でまとめました。大学院生のワークショップなので、地権者や行政の意向は置いておいて、現状分析・将来予測を行った上で、自由に市街地再整備のアイデアを出しました。駅の近くに大規模なオープンスペースを整備する提案、全体的に老朽化した街区をまるごと再開発する提案など、今後の都市デザインの参考になる刺激的な内容も多く、一般公開した成果発表会には、名古屋大学の教員と学生だけではなく、名古屋市や名古屋都市センターの行政関係者も来場し、活発な意見交換が行われました。

合意形成・意思決定を支えるデザイン提案

地区スケールの計画の策定は、地域を構成する住民、地権者、事業者、企業、政府、非営利活動団体などの多様な主体の間で、地区の将来像とその実現手段について合意を形成し、意思決定するプロセスです。その際、特に都市の物理的な環境の整備に焦点が当てられる場合は、どのような空間の形成を目指すのかを共有することが大事で、そのためにはさまざまな都市デザ

イン提案を出し合い、公開の場でそれらについて活発に議論することが重要です。そして、その都市デザイン提案の作成において、地域のことをよく知っている地域の建築家が果たす役割は大きいと思います。

■参考

- 1) 錦二丁目まちづくり協議会 <<http://www.kin2machi.com>>
- 2) 港まちづくり協議会「み(ん)なとまちのVISION BOOK」 <http://www.minato55.jp/event/h24/chousakentou_h24/visionbook.html>



むらやま・あきと | 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻・准教授(工学部環境土木・建築学科/減災連携研究センター兼務)。1977年生まれ。2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員を経て、2006年10月から名古屋大学に在籍。専門は都市計画・まちづくり。2004年日本都市計画学会論文奨励賞受賞。共著に『世界のSSD100：都市持続再生のツボ』(彰国社)、『都市のデザインマネジメント：アメリカの都市を再編する新しい公共性』(学芸出版社)など

◎次回は9月号掲載です。



木材と水分、膨潤・収縮

石山 央樹・中部大学工学部建築学科 講師

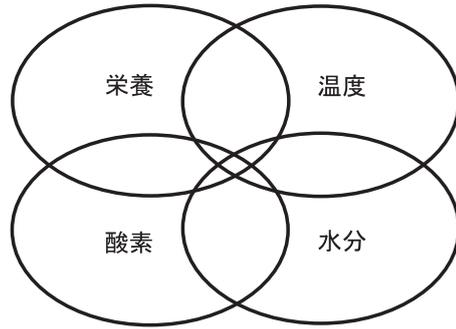


図1 生物劣化の4条件

前回、木材を使用した納まり、特に水分の滞留に着目したディテールの紹介を通して、木とながくつきあうことについて問題提起をした。今回は、(読者の皆さんには釈迦に説法であることを承知の上で) 建築材料としての木材の特徴や性質、特に木とながくつきあっていく上で抑えておいた方がよいと思われる特徴や性質、特に水分に関することと直交異方性について、いま一度見直したいと思う。

木材と水分

樹木の生長に必要なものの重要な1つが水である。一方、木材の耐久性に対して重要な意味を持つものもまた水である。木材の生物劣化(生物劣化については別に機会に詳しく触れたい)に必要なものは、劣化させる生物のエネルギー源になる「栄養」、劣化させる生物が活動するのに適した「温度」、劣化させる生物の代謝に必要な「酸素」(≒空気)、同様に劣化させる生物の代謝に必要な「水分」の4つである(図1)。このうち、栄養は木材そのものであるし、人間が木材利用する環境下では適度な温度や酸素をなくすことは難しい。このため、木材の生物劣化を防ぐための最も有効な手段が「水分を極力なくすこと」なのである。

含水率と木材の性質

木材中の水分量を表す指標は「含水率」である。木材の含水率は「木材の全乾質量に対す

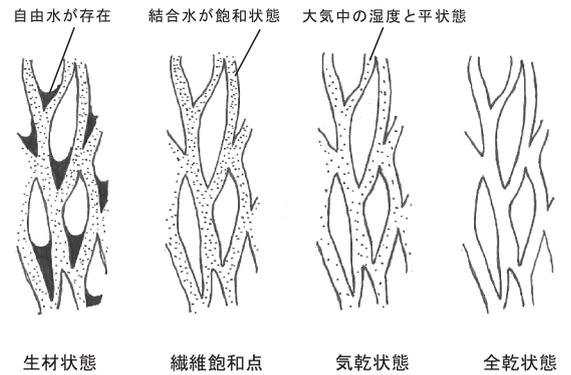


図2 含水率の状態

る、含まれる水分の質量の比」である。ちなみに、「人間の体に含まれる水分量は60~70%」などと言うときの分母が水分も含んだ質量を指すのとは異なることに注意が必要である。

木材中の水分は2つの形態で存在する。木材を構成する分子と結合している、すなわち細胞内に含まれる水分を結合水と呼び、細胞間に存在する水分を自由水と呼んでいる。全乾状態から水分を増加させていくと、まず水分は結合水として存在し、やがて細胞内に存在しきれなくなり、自由水として存在するようになる。この「細胞内に存在しきれなくなる」境界の状態を繊維飽和点と呼び、そのときの含水率は22~35%程度である(図2)。

結合水の存在量は木材の種々の性質に大きな影響を与える。一方、自由水の存在は木材の性質にはさほど影響を与えない。また、木材の腐朽には自由水が不可欠であり、繊維飽和点

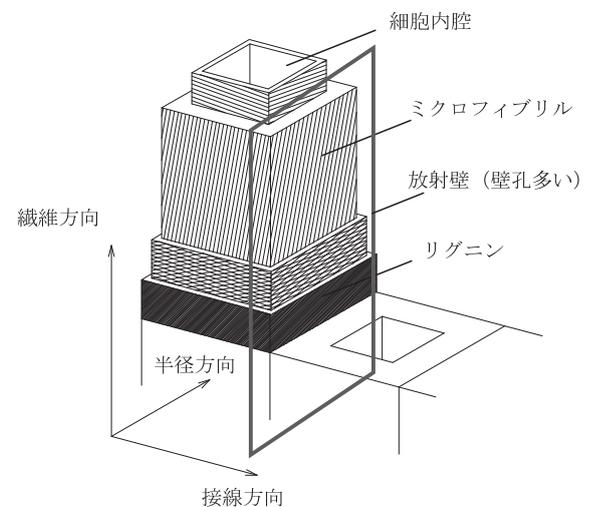


図3 細胞壁モデル

以下では腐朽は一般的に発生しない。例えば、結合水は木材の膨潤・収縮に著しい影響を与える。結合水は細胞に直接作用して細胞壁の厚みを変化させるため、含水率が高くなれば膨潤し、低くなれば収縮する。結合水はまた木材の電気伝導率に対しても大きな影響を与え、含水率の増加とともに急激に上昇する。木材の電気抵抗式含水率計はこの性質を利用したものである。

直交異方性という性質

前回、木材はストローを束ねたような構造をしているため、直交異方性という性質を持つということ述べた。例えば、力学的には、繊維方向には強く、繊維直交方向には弱いという具合であり、膨潤・収縮の度合い(収縮率)に関しては、繊維方向：半径方向：接線方向では概ね0.5：5：10といった具合である。今回はもう少し、膨潤・収縮について詳しい説明をしたい。

結合水は木材繊維である分子に作用するが、繊維方向の分子内の結合を断ち

切ってその間に作用するのではなく、分子のいわば側面に作用するため、含水率の増減による膨潤・収縮は、繊維の長さの変化として現れるのではなく、太さの変化として現れる。木材の細胞は図3のような構造をしており、木材の繊維(マイクロフィブリル)は細胞の軸方向-木材の軸方向でもある-に近いものの割合が多いため、木材の膨潤・収縮は繊維直交方向よりも繊維方向の方が大きいというわけである。また、早材よりも密度の大きな晩材は収縮率も大きい。早材と晩材が交互に存在する半径方向では膨潤・収縮量は早材・晩材の膨潤・収縮量の総計となるが、全長にわたって晩材が存在する接線方向の膨潤・収縮量はこれよりも大きくなる。このため、収縮率は半径方向よりも接線方向の方が大きい。また、放射組織(半径方向に連続する組織)が半径方向の膨潤・収縮を拘束することや、放射壁には壁孔(細胞壁面にある孔で、これを通して水分が細胞間を移動する)が多く、膨潤・収縮しにくいことなども、半径方向よりも接線方向の収縮率が大きいことの理由と言われている。

膨潤・収縮と反り、背割り

半径方向と接線方向とで収縮率が異なるということは、木材に反りや割れを引き起こす原因となる。板目材が乾燥すると木表側に反ることはよく知られているが、この原因もまた半径方向と接線方向の収縮率の違いである。

板目材の木口を見ると、木裏側の辺は半径方向により近い角度であり、木表側の辺は特に中心部分は接線方向により近い角度であることが分かる。前述したように半径方向よりも接線方向の収縮率が大きいため、板目材が乾燥すると、

木裏側より木表側が相対的に大きく収縮し、木表側に反るのである(図4)。また、木材に放射方向に干割れが入るのも同様のメカニズムである。木表寄りが収縮しようとするのに対し、心寄りの部分が相対的に小さな収縮となって木表寄りの部分を拘束するため、放射状の干割れが生じるのである。

木材をより適切に使うために

以上、木材における水分と膨潤・収縮のメカニズムについて説明した。集成材が木表と木表を接するように接着して変形を抑えているメカニズムや、製材に背割りを入れる理由などお分かりいただけただけだろうか。現在は乾燥材が出回るようになり、乾燥収縮や乾燥割れのリスクは相対的に減ってきていると考えられるものの、木材利用を拡大していくためには避けて通れない問題であろう。

通常は水に濡れない納まりであってもフェールセーフ的な考慮をすることは有意義であろうし、前回述べたような木材のディテールの工夫をする場合にも、木材と水分、膨潤・収縮のメカニズムを思い出していただければ幸いである。

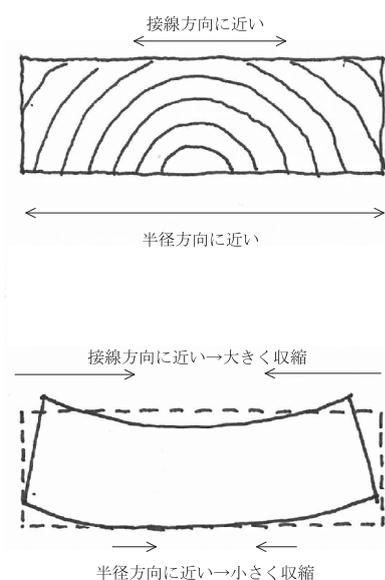


図4 板目材の変形



いしやま・ひろき | 1975年静岡生まれ。1998年東京大学工学部建築学科卒業、2000年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程終了。同年住友林業株式会社入社。2009年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。2010年より九州大学非常勤講師、2012年より中部大学講師。専門は木質構造、木質材料、耐久性、建築構法。博士(工学)、技術士(建設部門)、一級建築士

●次回は9月号掲載です。



芦原太郎会長

芦原太郎 JIA 会長 JIA のこれから —公益社団法人としてのスタート—

5月10日、公益法人移行後初めての東海支部通常総会のあと、芦原太郎会長を迎えて表題の記念講演会が開催された。



JIAは4月に登記して公益社団法人になったが、公益法人になってもJIAの活動は基本的には変わらない。制度は変わって法律に則っていかなければならない部分はあるが対応できそうである。しかし一方で、世の中が変わってきている。地球温暖化などの環境問題発生や国民総幸福量などの価値観の多様化、あるいは、共同体主義による国境を越えた連携の必要性などに対し、JIAの活動や考え方もそれに合わせて対応していかなければいけない。建築家は環境づくりに直接かかわっている。地域社会と共にある生活、自然と共にある生活をいかにつくっていくかが大切で、いろいろなもの、自然と人間、自然とライフスタイル、人工的なものと自然などの関係性を調整しながら継続的に建築や空間をつくっていかなければならないと述べられた。

新しい定款では、JIAや建築家の活動を通じて安心・安全で持続可能な生活環境づくりをすることで社会に貢献することになり公益寄与となることと、JIAとして会員の質と行動を社会に保証することで公益保護になることを明示した。これからのJIAは本部のミッションを絞って簡略化し、支部や地域会を主体とした活動を進めていこうとしている。支部や地域会を主体として地域に根ざした社会貢献活動をしていただきたい。地域とは言うもののTPPの関係もあり、世界の建築家との連携も必要で、建築家のグローバルゼーショ

ン化も進んでいる。JIAはUIAの日本支部であり、世界とのネットワークがある。これを活用して世界へ活動を展開してほしい。ライセンスの相互認証にもより取り組んでいきたい、と語られた。



続いて新会員制度と建築家資格制度についての話へと進んだ。

公益保護のため正会員の入会資格を厳しくし、一級建築士取得後5年の実務経験を有し建築家憲章に賛同するものとした。一方で、準会員をつくって次の正会員の予備軍や協力してもらおう仲間を増やすことを考えている。ジュニア会員には実務訓練を充実させ資格取得の一助にするとか、学生会員にはオープンデスクなどをしっかりやることで設計事務所のことを理解してもらいたい。正会員には表彰制度などにおいてJIAの賞と外部の賞を連携させることも考えている。

日本には100万人位の建築士がおり、そのうち30万人ぐらいが一級建築士で、その中でも専ら設計に携わる建築家は5万人ほどと言われている。この5万人のための資格が必要でJIAだけが本気で取り組んでいる。登録建築家は、スタート時はJIAの会員で要件を満たすものであったが、今は



会場の様子

セミオープン化してJIA会員以外の専門の建築家もいる。公益社団法人化にあわせて正会員の資格要件を見直し、登録建築家の登録要件と一致させた。正会員は全員登録建築家になることを目指している。

また、JIAの登録建築家と建築士会の一級建築士である統括設計専攻建築士との資格統合を目指しているが、名称の問題や二級と木造の扱いなどでそれぞれの団体のコンセンサスが得られない状況である。とりあえず認定機関や認定基準を統合することで一歩前進させようとしている。登録建築家を専業オープン化して社会制度として、その後国家資格に持っていくルートと、JIAの正会員はすべて登録建築家であり、それから国家資格に進むとするルートの二方向で進めようと考えている。このようにして5万人の資格を形づくっていこうと考えている、と話された。



最後に、支部総会で話題となったことに答えて、公益目的事業比率は、現時点で60%程度と想定されること、理事会がすべて責任を持つという法令に則る形をとるが、実情は支部や地域会で決めればよいとのこと、公益目的事業の判定のマニュアルをつくっていくが、簡単に言えば、不特定多数に開かれた事業は公益事業と言えるとのこと、認定機関はHPをチェックするようだからHPでの広報に注意しなければならない、と講演を締めくくられた。



鈴木慶智 | 東海支部幹事・伊藤建築設計事務所

復興計画、平時から行政と連携し準備を

去る4月6(土)、7日(日)の2日間にわたってせんだいメディアテークで開催された「みやぎボイス 震災復興シンポジウム2013 地域とずっと一緒に考える復興とまちづくり」を聴講した静岡地域会防災対策委員長杉山貞利氏による報告会が、5月13日(月)に行われた。参加者は18名であった。

シンポジウムの趣旨として開催の案内には、「長期的な復興・まちづくりに対して復興活動が進行している石巻市北上地区に焦点を当て、地域の今を深く掘り下げながら支援する広範な専門家や活動団体が連携し、地域の人たちとずっと一緒に考える関係づくりを進め、復興からまちづくりへみやぎの声を発信することを目的としています。今回は宮城での震災復興を深く、広く取り上げますが、今後福島、岩手への展開へと繋がる内容にしたいと考えています。さらに支援活動を展開している多様な分野の専門家・団体の協働・協力を得て、今後互いに学び合いながら協働する仕組み、プラットフォームづくりに繋がる内容となっています」と記載してあったことを紹介しておく。

実際のかかわり方については、土木関係が主体的であって、もっと以前からかかわっていなければいけないはずの建築家には行政からの声が掛からないようである。その中でも東北支部のJIA会員の皆さんは頑張っていると、杉山さんの話は始まった。

被災後の復旧および復興の対応については、平時より行政が準備しておくことが大切であり、建築家が日ごろからそれを行政に提言する重要性を感じたことと、被災地間の連絡は難しいのでJIAの本部が東京であったことが3.11の結果か

ら良かったとの印象を受けたとのことである。

報告は次のようなテーマで進められた。①なぜ十三浜で起きたのか、②なぜ建築家がかかわれたのか、③合意形成のプロセス、④北上まちづくり委員会支援活動、⑤今復興の現場で不足しているもの、⑥仮設住宅、⑦明るい話題、である。

復興には専門家の支援が必要であり、その連携・協働の重要性は広く被災地で活動している方々が参加者の中に大勢いることで明らかであった。十三浜地区の高台移転計画の発表があり、これは集団移転の最初の事例となったようである。この被災者の中に建築家がいる、避難所での暮らしにおいて、自衛隊の援助はすぐ来ない・水を確保しなければならないなどの状況から復興支援の輪を立ち上げ、多くの建築家がかかわることになった。合意形成に向けてワークショップを行い、搬出土を減らすこと、雑木林・防風林を生かすことも協議した。復興現場では行政と建築家の関係より土木コンサルとの関係が重視されているため、街区計画と住戸計画を一体として考えることが不足している。建築家は行政のコンサル役として平時から行政との関係をつくっておくことの大切さを感じた、などが概要であった。

また、会場およびパネラーから出た意見には、①何をもって復興とするか、住民が戻り元の人口になることが復興では永久に復興できない。②宅地規模が一律100坪では狭く、農漁業をなりわいとする被災者には農機具や魚網の修理などを行う作業場が必要。③高台移転には道路の問題がある。行政が計画する規格道路と移転先宅地との接続が困難で不便。勾配や



会場の様子

道路幅接続地点などの解決が必要。④高台移転が一代で終わるのではない。子の代は住み着かない恐れがある。⑤行政の立場から移転戸数を含めた全体の規模が確定しないと地権者との交渉、各官庁との折衝ができない。事前の地盤調査だけをお願いしても地主から了解は得られない。⑥津波により集落が流された北海道奥尻島では、集落ごとに復興住宅の高台移転を実現したが、住民が下りて来なくなり、元の町はさびれている。⑦土木工作物が目立ち自然破壊の恐れはないか。傾斜地の宅地造成は地山を切り擁壁をつくり土を埋め戻す雛壇形式となり、景観とはなじまず自然破壊と見られやすい。などがあったとのことである。

JIA宮城地域会の活動では、町中の空き店舗を利用した「まちカフェ」を立ち上げたことが挙げられる。被災者が気軽に何でも話せるたまり場として運営し、心を明るくするようなイベントも企画している。今後は建築家や弁護士がサポートする地域型の復興住宅の支援活動に重点を移していく意見表明があったとのことである。

静岡においても、東海地震・南海トラフによる大地震が懸念されているので、被災後の復旧および復興計画を平時から行政と連携し準備しておくことの重要性が伝わってきた。また、住民と行政のパイプ役としての建築家の役割の大きさ、そして震災と建築、震災とまちづくり、復興後の景観のことも常日頃から意識して準備を積み重ねておくことの大切さを認識させられた報告会であった。



尾林孝雄 |
尾林建築構造設計事務所

シリーズ第6弾「左官」 「伝統左官技術の多様性と可能性」

昨年、「現代の名工」(厚生労働省)に選ばれた松木憲司氏にお願いをしまして、湯の山温泉「寿亭」にて講演会と実技見学会を開催しました。午前の第1部では講義をいただき、午後の第2部では湯の山を一望できる「水雲閣」(国登録有形文化財)にて、左官による修復過程の一部を気持ちのいい風が吹き抜ける中、見学させていただきました。

■伝統左官工法「土物の仕上げについて」

近年は樹脂を入れた左官塗材が主流となっていますが、第1部では、あえて自然素材だけで、伝統的な工法にこだわって行っている仕事の過程についてのお話をいただきました。竹小舞や木摺り下地での土物の施工例、チリトンボやのれん打ち、中塗り、上塗りの施工例、窓廻りの取め方、竈の施工例など、多様な技術と工夫、膨大な手間をかけたさまざまな仕事についてご説明くださいました。

第2部では、昭和4年に建てられた「水雲閣」の、座敷に至る「渡り廊下の壁」に仕上げ塗りをする様子を拝見しました。左官にとってこの壁の難しいところは、自然木の丸太で柱や桁が組まれており、ただ平滑に壁を塗る仕事ではないところにあります。丸太に壁を塗りつける際には、丸太の丸みやエクボをどう見せるかが、左官にとって腕の見せ所となります。壁の

中央部分が盛り上がり、柱際になると柱に合わせて斜めに塗りつけてゆきます。確かに、自然木の“らしさ”を出すためには、垂直な墨にあわせて平らに塗ったのでは貧相な印象になるわけで、見て知るほどに奥深さがありました。

仕上げの土は、京赤錆土にミジンスサ、珪砂、ツノマタ(海藻から作った糊)を混ぜたものを塗っています。この建物は、昭和初期に建てられた後、途中改装が行われており、松木さんが工事に入った時点ではベージュ色の新建材のじゅらくが塗ってあり、経年で劣化していたそうです。剥がしてみると赤錆色の土が出てきたことから、これを復元することにしました。また、柱などの木部が時代を帯びた色になっていることから、土壁に貫入を入れるなど、新しい仕事と感じさせない仕上げになっています。80年前の大工や左官の気持ちを感じ、敬意を払った仕事の深さに、感じ入るものがありました。

■ベトナムの土を活かした建築づくり

フランスでの活動やモロッコの土建築を見てきた旅など、興味深い海外でのお話をいろいろ伺いました。中でも私が感銘を受けたのは、ベトナムでの活動についてです。ベトナムの奥地、外国人がほとんど入ったことのないような地域で、村人の皆さんと一緒に、かわいらしい学校

の図書館(2間×3間程度の広さ)をつくった話です。

まさに地産地消、あるものだけで建物をつくりました。現地の竹を割り、ヤシの木の表皮を割いて水に浸して柔らかくして編み、竹小舞をつくります。壁土は、川底から泥をすくい、藁を伐って混ぜました。漆喰をつくるためには、タニシから貝灰をつくるためのカマドをつくることから始まり、随分試行錯誤されたそうです。そして現地の生石灰を消化させものと混ぜて、外壁や内装に塗っています。屋根にも竹を編み、その上に土を載せて土天井(スラブ)としました。漆喰に顔料を塗って、黒板もつくりました。日本の伝統的な技術を応用し、現地の材料で現地の人々がつくった建築です。黒板の前で、校長先生が授業をしている姿、子どもたちの笑顔の写真がとても印象的でした。

日本の工業製品、先進的な技術を使って支援することも大切ですが、現地の人たちが、身近な素材で自分たちの力でつくり出せる技術を伝播することも、極めて重要なことだろうと感じます。日本の伝統技術の新たな一面を見せていただいた気がしました。



宇野勇治 | 愛知産業大学



水雲閣での解説。座敷の壁はこれまでに修復工事を行ってきました



京赤錆土による仕上げ塗り



チリ際の仕事。丸太の丸みやエクボをどう見せるか



ベトナムでの土壁塗りの様子。すべて現地の材料



「建築家会館」JIA 本部レポート

JIA のさまざまな課題が議論され、決められる場「建築家会館」。JIA の本部事務局もここにある。東海支部からは理事会に2人の本部理事が赴くが、一般会員はなかなか訪れる機会がない。今回、写真とともに内部の様子を伝えていただきます。

左 | 本館の外壁は幅 30 センチの杉板型枠の打ち放し仕上げ。設計はコンペで選ばれた進来廉氏

吉元 学 | ワークキューブ



■ 建築家会館設立の志

建築家会館は、1961年に前川國男氏らが中心となって建設の計画が持ち上がり、1968年に本館が完成しました。1996年にJIA館が購入され今の姿になりました。地下1階地上6階の建物です。「処士横議の場」を理念として、建築に限らず多彩な世界の方々との交流サロンを目指したようです。

■ 株式会社 建築家会館

組織としては株式会社であり、現在の社長は前川氏から数えて6代目である野生司義光氏です。株主はJIA会員であることが条件であり、一口5万円で現在293名の株主がいます。株主になると建築家クラブの銘版に名前が入り、毎年発行されている建築家会館の本が贈呈されます。物故会員の株を建築家会館が買い取り、会員に斡旋しているとのことでした。皆さんも株主になりませんか。

■ 内部に潜入！

JIAに入会して今年で17年目になります。5月31日の表彰式(JIA環境建築賞優秀賞)出席のため、初めて建築家会館(JIA本部)に行ってみりました。JR東京駅からは原宿駅で降車、若者で溢れかえる竹下通りを30年ぶりに歩いて、神宮前にある本部に向かい

ました。有名建築が立ち並ぶ外苑西通り(通称:キラートリ)に面して、意外にも控えめに建っていました。



本部はワンフロアのコンパクトなオフィス

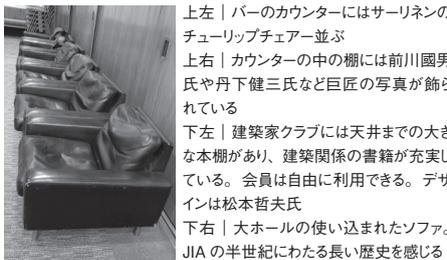
1階には現在休

業中の伝説のバーがありました。窓の外には隣の寺院の墓地が見えるという、実に人生についてつくづく考えさせられるバーです。30年前でボトルキープが5万円だったそうですが、前川國男氏や宮脇檀氏のお話が拝聴できるとしたら高いのか? 安いのか? 東海支部では事務局のある昭和ビルの地下の居酒屋がこのバーに当たるのでしょうか? こちらは間違いなくお値打ちです。

1階にはほかに中庭に面して大ホールと建築家クラブがあります。建築家クラブは会員が自由に利用できるサロンのなスペースになっています。持ち込みで飲食も自由ですので、東京にお寄りの際は東海支部の会員の方もぜひお使いくださいとのことでした。

■ 建築家の中心は意外と小さかった

JIA本部の事務局はJIA館の5階にありました。日本の建築家の中心にしては、いささか小さくて驚きました。JIAは単一会であり、すべての会員は本部に帰属しています。ただし、これからの建築家の活動は地域に密着することがより求められると思います。支部、地域会は横のつながりを持って地域で活動していくために重要になるでしょう。JIAの組織は、決して「本部」「支部」「地域会」「会員」のピラミッド型の組織ではなく、会員がフラットに連帯していく組織だと私は考えます。一度は機会をつくって本部に行くべきだと思いました。



上左 | バーのカウンターにはサーレネのチューリップチェアを並ぶ
上右 | カウンターの中の棚には前川國男氏や丹下健三氏など巨匠の写真が飾られている
下左 | 建築家クラブには天井までの大きな本棚があり、建築関係の書籍が充実している。会員は自由に利用できる。デザインは松本哲夫氏
下右 | 大ホールの使い込まれたソファ。JIAの半世紀にわたる長い歴史を感じる

速報!

第20回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 公開審査結果

今年で、第20回となるJIA東海学生卒業設計コンクールの公開審査が、6月1日(土)、金山の名古屋都市センターで開催されました。審査員長に早稲田大学の古谷誠章先生を迎え、一次審査選出6作品を、6人の審査員で審査しました。

まず、各20分の配分で、プレゼン・質疑を行いました。休憩後、各審査員が金賞と思う作品に投票したら推薦作品がばらばらになり、一時はどうなることかと冷や冷やでしたが、古谷先生の適切なアドバイスをいただきながら、精査し、最終的に各賞が決まりました。

今年で20回を迎える記念として、1回から20回までの入賞者の作品データを電子化して東海支部のホームページで閲覧できるようにし、各学校関係者にDVDデータを郵送して、今後の卒業制作の参考資料にしてもらえるようにします。

また、記念座談会を開催し、過去の入賞者である皆川貴弘さん(2005年名古屋大学卒業：銀賞受賞)、酒井千草さん(2008年名古屋市立大学卒業：銀賞受賞)、金澤潤さん(2009年名古屋工業大学卒業：銀賞受賞)にも参加していただき、意見交換が行われました。これからの卒業制作を考える上において参考になる意見が多く表出し、大変に意義のある座談会であったと思います。

8月号にて作品の発表と講評、9月号にて記念座談会の内容を紹介させていただきます。



吉川法人 | 第20回 JIA 東海学生卒業設計コンクール委員会
委員長・吉川法人+都市建築デザイン室



上：審査員の方々 下：会場の様子

撮影：宮崎晋一

金賞 「名駅ウエスタン―駅裏は足場をまとう―」
戸谷 奈貴 (名古屋工業大学)

銀賞 「周遊する舞台
～「学び」を取り入れた観光地としての新しい鳥取砂丘の提案～」
鈴木理咲子 (椋山女学園大学)

銀賞 「妖怪的建築の表出」
福田 晃司 (名古屋工業大学)

佳作 「Architect Jungle―都市ビルに公園を建築する」
西里 正敏 (豊田工業高等専門学校)

佳作 「記憶なき駅の半生―まちのゴミがまちを紡ぐ―」
大岩 良平 (名古屋工業大学)

佳作 「LONG PIECES STREET」
千葉 基博 (名古屋工業大学)

速報!

第1回 JIA 東海住宅建築賞 第1次公開審査結果

記念すべき、第1回 JIA 東海住宅建築賞の第1次公開審査が、6月15日(土)に、名古屋大学ES総合館にて開催されました。審査員に横河健氏、伊藤恭行氏、藤原徹平氏を迎え、応募47作品から7つの1次審査通過作品が選出されました。

まず13:10~15:00は、1次事前選考が行われ、19作品が選出されました。会場いっぱいに応募パネルが展示され、審査員がそれぞれ会場を自由に回りながら審査をしました。パネル前にて審査員より出展者に説明が求められ、応答する姿が見られました。

次に15:30~17:00には、19作品について公開討論の形で、7作品にしぼる議論が展開されました。各審査員より「どのような視点で審査を行ったか。どの作品を、なぜ推薦するのか」などの説

明があり、住宅をめぐる3氏の異なる視点が詳らかになりました。また審査員からは、「充実した作品群で、選出するのが難しい」との言葉が聞かれ、議論が拮抗する中、通過作品が選出されました。会場は建築家や学生によって満席となりました。

審査後には、懇親会も催され、審査員と集まった建築家の大交流会となりました。これを機会に、東海の建築家どうしの交流や議論が活性化していくこととなりそうです。



生田京子 | JIA 東海住宅建築賞特別委員会委員
名城大学 准教授



審査員が一つ一つパネルを見て回る

作品名	第1回得点	推薦	選出	落選	不評	不明
2 坂の上の家	3	○				
6 OSHIKAMO	3	○				
7 LUNOU	2		○			
9 岡崎の家	1			○		
12 AMIDA HOUSE	1				○	
13 まとこの家	1					○
18 光の郭	1					○
19 緑緑の栢	2	○				
20 茶屋が坂の家	2		○			
21 浮壁の家	1			○		
23 MOGURA	1				○	
27 御器所の住宅	1					○
32 ナオハウス	1					○
34 母の家	1					○
39 翠の家	3	△				
41 大久手の家	2	○				

審査員の推す作品に印が付けられていく



会場いっぱいの公開討論の様子

PHOTO : HIROSHI YOKOZEKI

第1次審査通過作品

「坂の上の家」 鈴木貴紀

「ナオハウス」 渡辺 隆 (渡辺隆建築設計事務所)

「OSHIKAMO」 佐々木勝敏 (佐々木勝敏建築設計事務所)

「母の家」 貞村道俊+吉元学+平野恵津泰 (ワークキューブ)

「光の郭」 川本敦史・川本まゆみ (エムエーススタイル建築計画)

「まちに森を作る家」 栗原健太郎+岩月美穂
(studio velocity 一級建築士事務所)

「MOGURA」 宇佐見寛 (アトリエルクス 一級建築士事務所)



今年3月にオープンした建築家と街を歩くWEBマガジンChu-bura。ほぼ4か月が経過し、現在サイトに掲載されている建築家は25名、掲載記事は8つです。そもそも15年にわたり5版を重ねた建築家カタログに代わるものとしてスタートしたサイトです。反対意見が複数あったのも事実ですが、電子情報が現代人にとって欠かせないものとなった今、紙媒体ではできないことを実現するツールとして積極的に活用することがChu-buraに課せられた課題です。大部分の建築家、設計事務所がホームページを所有し、ブログやFacebookなど積極的に独自の発信活動をされる方々も多くいますが、それらのインデックスとしてこのChu-buraが機能します。

星の数ほどあるウェブサイトの中でどのようにして自分のサイトに訪問していただくか。建築家紹介サイトは世の中にたくさん存在しますが、それらは名刺広

告、あるいは電話帳の如く事務所名を羅列しているにすぎません。Chu-buraがそれらと根本的に違うのは、ウェブマガジンであるということです。建築家がレポーターとなり、その記事を楽しんで読んでいただくことがサイトのコアになっています。

記事を通じて建築家それぞれの「人」を伝え、建築家の「全体像」を伝え、それは個人、総体ともに社会に浸透することにつながります。建築家の職能は建物を設計することばかりではなく、設計業務で培われたスキルをまちづくりなどの地域活動でも意見の調整役として活用することであり、それが活動のフィールドを拡大することになります。

●好評の投稿記事

現在、8記事が掲載されています。吉元学さんの「せとでん散歩」は散歩道で発見した瀬戸線沿線の風景を詩人との会話を通じてレポートしています。笹野直之さ

んは若宮大通にあるアートを独自の視点で紹介。ほか、平野恵津泰さんのジャンクションの話、関口啓介さんの音楽家のレポート、藤田義勝さんの川合健二さんのコルゲートハウスを通じた三河人の紹介、宮坂英司さんのクロワッサンの話、関戸隆久さんの消えゆく銭湯の面白さなど、各レポーター本人をよく知る私でも、それらの文章を拝読すると新たな人間的発見があります。

事実サイトを訪問していただいた方から「大変面白い」と好評をいただいています。この地域の風景や人を建築家独自の視点で深く切り込むユニークさが、好評の理由ではないかと分析しています。新たな記事掲載がファンから待ち望まれています。

●まだまだのブログ投稿

掲載建築家は独自のブログページを設けています。ブログ投稿で一度でも文章をアップしたのは25名中3名とまだまだ活用されていない状況です。サイトの更新頻度はサイトの血流と言われるそうです。血流のないサイトは植物化してしまいます。すなわち世の中から存在を認知していただく機会が失われていくことになります。参加建築家の皆さんには、ぜひとも積極的に投稿をお願いしたいところです。ブログもいくらか「慣れ」が必要なようで、多少躊躇されている方も多いようですが、気楽に投稿していただけたらと思います。

●Facebookでも

Chu-buraをアピール

日本のユーザー数1,300万人超のFacebook。Chu-buraもサイトオープンとともにページを設けました。新規記事やブログの投稿がされると自動的に通知されます。現在「いいね」をしていただいたユーザー数は124。もっと多くの方々に



関戸隆久さんの投稿ページ。思わず銭湯に行きたくするような記事で、建物や人物を観察したくなります



Chu-buraのfacebookページ。最新記事やブログが自動的にアップされます。ぜひとも「いいね」を！

「いいね」していただきたいところです。「ARCHITECT」読者の皆様もぜひとも「いいね」をお願いいたします。

● Chu-bura これからの展望

現在、登録建築家数、投稿記事数、ブログの活用など当初設定した目標に到底及んでいない状態ですが、訪問していただいた方々から大変好評をいただいているのは事実で、サイト自体に自信を得ているところです。しかしながら新規記事、ブログ投稿など課題が多くあるのも事実で、社会に広く認知されるためにはそれらを克服していかなばなりません。特に東海エリアの紹介を目的とし、この地域で活動する建築家をアピールするサイトとして運営するためには、東海全体の建築家の参加と幅広い地域紹介の必要があります。

2年間という当面の運営期間ですが、将来を見つめた活動として建築家がより社会に浸透するために、継続してゆくべきと感じているところです。Chu-buraは参加建築家のためだけではなく、JIA全体の活動に貢献するものと思います。ぜひともChu-buraの活性のため皆様のご協力をお願いいたします。

● 参加建築家募集中！

オープン前まではChu-buraなるものがよくお伝えできなかったと思います。サイトをご覧になって参加建築家としてご協力いただき、個人的アピールの場として活用していただきたいと思っております。参加建築家を継続募集中ですので、ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

<問合せ先>

JIA 愛知 住宅研究会 Chu-bura
運営委員長 | 生津康広
TEL 0561-51-5002
Mail namatsu@archihouse.jp
(生津建築設計室アーキハウス)



「ぺちゃくちゃないと NagoyaVOL.14」に Chu-bura が参加!

生津運営委員長が熱くプレゼンいたしました!

5月10日の東海支部2013年度総会の夜に、ひっそりと熱く「ぺちゃくちゃないと NagoyaVOL.14」が名古屋工業大学校友会館内のCafé solaで開催されました。「ぺちゃくちゃないと」とは、日本を拠点とする建築事務所クライン・ダイサム・アーキテクツの代表であるアストリッド・クライン (Astrid Klein) とマーク・ダイサム (Mark Dytham) によって考案されたもので、20枚の画像を20秒間映し出す400秒の間に発言者がプレゼンテーションするイベントです。内容は「趣味」「ボランティア活動」「大学での研究」「企業のPR」と何でもアリ。最初のぺちゃくちゃないとは2003年2月に東京で開催されました。その後世界中に広まり、2012年9月までに世界552都市で開催。名古屋でも、文化やデザインに関心のある老若男女の高感度人間が集まります。

Chu-buraのトップページでは、あいちトリエンナーレと同様にリンクを貼らせていただいています。建築家として街の新たな価値を発見し、記事にすることで市民の皆さんに建築家を知ってもらえるChu-buraを、少しでも多くの方に紹介したくて参加しました。これはJIAが目指すコミュニティーアー

キテクトへの足掛かりともトレーニングとも言えるものです。

総会后、Chu-bura運営委員会の生津康広委員長と名古屋工業大学へ。ワンドリンク付き1,000円の入場料です。会場には多くの若者たちが集まっています。トップバッターは名古屋市新栄にあるシェアスペース「うずみん」のプレゼン。続いて名古屋の参加型フリーマガジン「OoooO」。最初は緊張した雰囲気もあった会場ですが、思い思いにお酒を飲みながらプレゼンを聞きリラックスしたムードになってきたところで5番バッター生津氏登場です。

落ち着いたいつもの口調で熱く語ります。実際のページを映しての内容説明からChu-buraの目的を説明。アツという間に400秒がたちました。司会の方にも興味を持っていただきプレゼンは無事終了。今後Chu-buraが広く知られれば知られるほど、記事の充実に努めなければならないと思います。

建築家と地元を歩くWebマガジンChu-buraは愛知地域会の住宅研究会が運営する公益活動です。ですよね？



吉元 学 |
ワークキューブ



会場は大入り満員。デザインに敏感な若者たちが多いです



生津委員長、少し緊張気味でしょうか？

原子力関連施設とともに生きてきた青森県 地産地消のエネルギー社会を目指して

JIA 青森 八洲建築設計事務所 進藤 勝人



3.11東日本大震災により東北地方の太平洋沿いは壊滅的な被害を受けました。津波の威力はライフラインの崩壊、原子力発電所の事故など想像を絶する被害をもたらし、日本のエネルギーの在り方は変更を余儀なくされています。

青森県においても再生可能エネルギーの計画が各地で行われ、エネルギーの自立・分散による災害に強い地域づくりが進められています。ここでは東日本大震災による青森県の被害状況や置かれている現状についてお話ししたいと思います。

①青森県の東日本大震災被害状況

東日本大震災により青森県の太平洋沿いも大きな被害を受けました。六ヶ所村、東北町、三沢市、おいらせ町、八戸市、階上町など、特に八戸市の被害が大きく、住宅約680棟が全半壊しました。また、八戸市臨海部工業地帯は北東北最大の工業地帯ですが、鉄鋼・紙・パルプなどの大型工場も被害を受け、長期間にわたる操業停止を余儀なくされました。

②青森県の原子力施設の状況

青森県内には4市町村に原子力関連施設が置かれています。

- ・ 大間原子力発電所 (工事中)

- ・ 東通原子力発電所 (運転停止中)
- ・ むつ市使用済燃料中間貯蔵施設
- ・ 六ヶ所村原子燃料サイクル施設 (再処理工場、ウラン濃縮工場、MOX燃料工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターなど)

青森県はまさに原子力関連施設とともに生きてきた県といえます。

3.11以来、原子力発電所の在り方が問題となり、不透明な状況となっています。

また、原発問題もさることながら全国から使用済核燃料を受け入れる青森県にとって、現在、原子力関連施設と長い付き合いをせざるをえない状況にあります。巨大津波が繰り返し起きることが分かった今、原子力関連施設の安全性をいかに確保できるかが急務となっています。

今までは一般市民も建築家も原発をよく知らずにかかわってきました。建築家はまず原発がどのようなものか理解し、これからの建築やまちづくりを見据え、新しいエネルギー政策にかかわっていく必要があると思います。

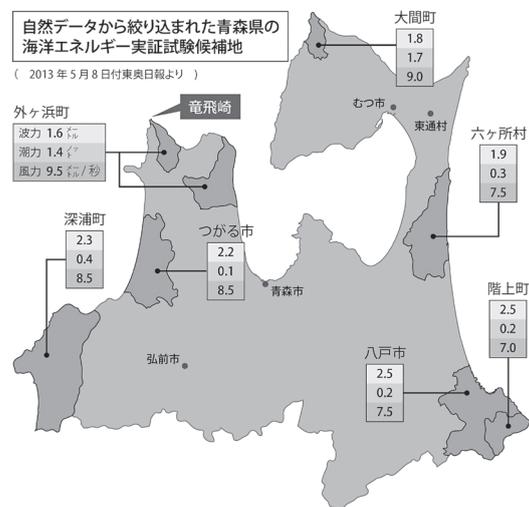
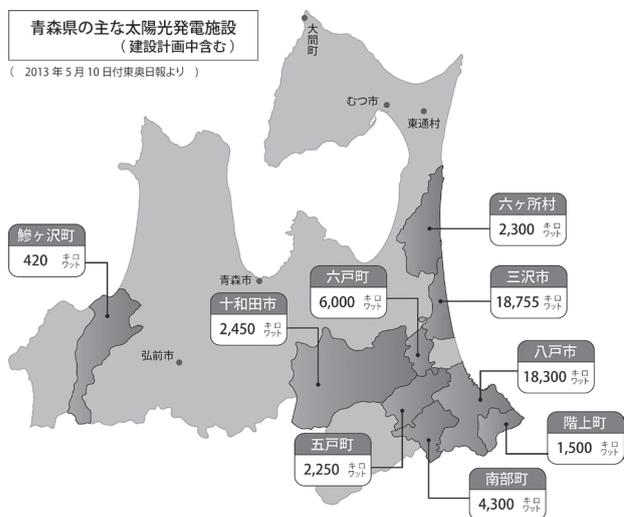
③地産地消のエネルギー社会を目指して —原発依存から自立へ—

青森県の被害状況	
被害総額	1,337億円
人的被害	死者3名 / 行方不明者1名 / 重軽傷者47名
住家被害	全壊311棟 / 半壊852棟
非住家被害	全壊508棟 / 半壊686棟
参考 最大避難人数	24,332人 (3月12日)

資料：青森県復興ビジョン (平成 23年 12月 21日 発表)

東日本大震災以来、全国的に再生可能エネルギーの計画が増えてきています。青森県においても特に洋上風力発電、太陽光発電の計画が進められています。三方を海に囲まれた青森県は洋上風力発電、潮流発電が期待されています。また、太陽光発電 (メガソーラー) も雪が少ない太平洋沿岸部に計画が集中しています。エネルギーの地産地消が可能な再生可能エネルギーを利用してスマートハウス、スマートシティを実現することがこれからの時代には必要です。

これまでも述べたように、青森県は原子力発電所、原子力関連施設に依存してきました。放射性廃棄物処理場がある以上、これからも続きますが、同時に新しいエネルギーの開発を推し進めることで依存から自立への道を模索する必要があると思います。



Bulletin Board

名古屋芸術の杜をみんなで作る会

ひまわりフェスタ 2013 ひまわり展 作品募集

後援：JIA 愛知地域会ほか

名古屋の都心に位置する久屋大通公園「いこいの広場」にて、第9回ひまわりフェスタが開催される。開催にちなみ、メインイベントであるひまわり展の作品を募集する。モチーフは「ひまわり」でテーマは自由。応募作品はすべて展示される。

●作品規定

①会規定の塩ビ板(45cm×45cm)か布製エコバッグ(37cm×36cm)を購入(いずれも1枚500円)し制作。販売場所および期間
／5月1日～9月30日 セントラル画材アートビル店(名古屋市
TEL:052-951-8998)、セントラル画材サカエ店(名古屋市
TEL:052-950-3838) 正文館書店本店文具売り場(名古屋市
TEL:052-931-9321)、名古屋芸術の杜事務局(下記)

②耐水性の画材を使用のこと

●応募

9月24日～10月4日 参加申込書を添えて事務局へ持参か郵送。

●ひまわりフェスタ2013

10月19・20日 久屋大通公園「いこいの広場」10:00～16:00

※雨天中止(「HP確認」)

●ギャラリー展示+表彰式

11月17日午後～30日 地下鉄久屋大通駅北改札口前「情報ギャラリー」「市民ギャラリー」表彰式：セントラル画材5階アートギャラリー 11月17日9:30～

●審査委員長

高北幸矢(清洲市はるひ美術館館長、グラフィックデザイナー、スペースプリズム主宰) 愛知県知事賞、愛知県教育委員会賞、名古屋市長賞など20以上の賞。各賞に副賞あり。

●問合せ

「名古屋芸術の杜をみんなで作る会」事務局(〒461-0001 名古屋市東区泉1-14-23 ホワイトメイツビル内 TEL:052-951-0363 FAX:052-953-9444 E-mail:geijutsunomori@rinkei.co.jp
※土日休み 「ひまわりフェスタ 名古屋」で検索

開催のお知らせ

子ども「だがねランド2013」

夏休み、名古屋都市センターにて

2006年からスタートした子どものための建築・まちづくり学習プログラム「だがねランド2013」が開催される。名古屋都市センターにおいて7月22日(月)～8月6日(火)にまちを計画・建設し、8月7日(水)からは出来上がった「だがねランド」で楽しく遊んだり、学んだり体験できるプログラムが用意されている。8年目の今年は、新たにオリジナルの建物のフレームキットを導入し、より高度な建物づくりに挑戦できる。(鈴木賢一/愛知地域会)

●ワークショップ内容

□都市計画 マスタープランづくり：7/22・23

まちの見直し：8/8・9

片木篤先生(名古屋大学大学院環境学研究所)

□建築・DAS(だがねオールスターズ)と建築フレームキットを使ってだがねの建物を建てる：7/24・25、8/3・4

・曾我部昌史先生(神奈川大学工学部・みかんぐみ)とだがねランドの多目的ホールを建てる：7/26・27・28・29

・岐阜県立岐阜森林文化アカデミーの学生とだがねの建物を木造でつくる：7/31・8/1・2

□ストリートファニチャー・修景 まちをより楽しくしよう：8/6

●申込・問合せ先

名古屋都市センター企画課 だがねランド係(名古屋市中区金山町1-1-1 金山南ビル内 TEL:052-678-2208 FAX:052-678-2211 e-mail:dagane@nui.or.jp

HP: <http://daganeland.com/html/about.html>



過去の「だがねランド」の様子

神言神学院のコンバージョンに参画して



谷口 元 | 名古屋大学

南山大学(名古屋市昭和区)の設立母体である神言神学院は、アントニン・レーモンドのデザインにより、1966年に現在の地に建てられた。たしか2006年頃と記憶しているが、南山大学が地下鉄の通る山手通に顔を見せるために、神学院の移転を希望・要請していることが分かった。大聖堂を口の字型に囲む宿舎や校舎は解体して教会部分のみを残し、トンネルを掘って大学と通りを直結するという案も出ていたという。建設委員会が設けられ、解体移転して一新する派と耐震機能改修して原風景を残す派に分かれて議論が続いたらしい。

その頃、神学校出身で南山中学高校の先輩でもあり、日本CM協会東海支部設立以来交友があった小菅哲氏から相談を受けたのが関与の始まりであった。改修と移転、両案並行して検討することになったが、移転予定の土地の形状と周辺環境などから神学校と宿舎の建設は難しいことが明らかとなり、現敷地での改築の方向となった。しかしながら大規模建て替えか否か、あるいはどの程度改修するかの議論が委員会内で始まった。

移転解体から保存改修へ

建設委員会や主だった方々の席上で、建築専門家としての意見が求められ、DOCOMOMOや登録文化財の話を変えながら、名古屋に残る数少ないモダニズム建築として、建築的価値を高め、保存継承しつつ活用していく修復を勧めた。この神学院出身の神父も多く、母校の原風景をぜひとも蘇らせたい気持ちが優勢となり、改修に決まった経緯がある。

原状回復の原則と予算縮約

行き届いた手入れがなされないまま築後50年近くが経過し、外壁は汚れとカビでみすばらしく、雨水や給排水などあちこちから漏水し、繰り返されてきた小修繕や模様替えでお粗末な状態であった。

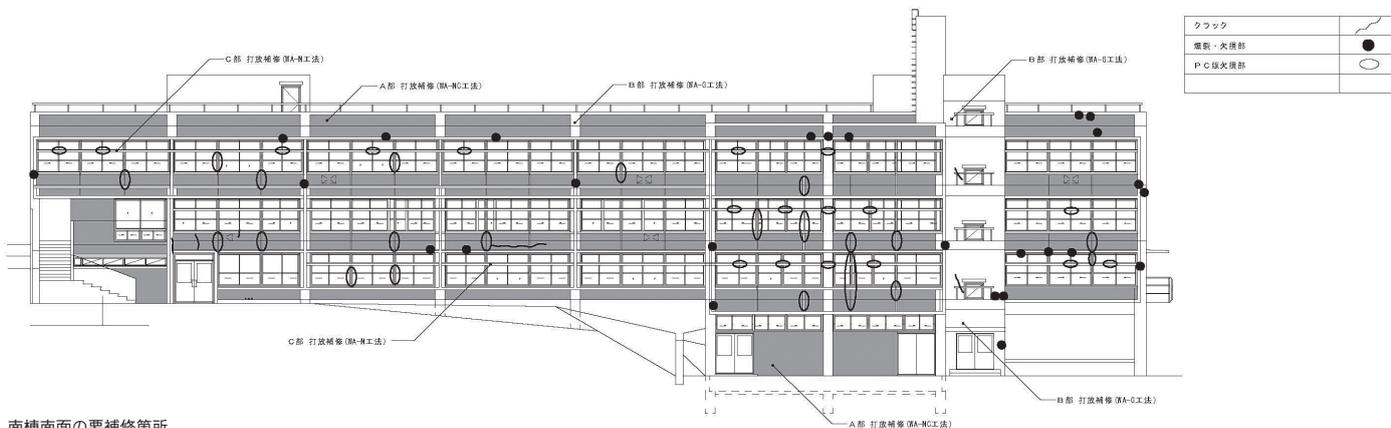
海外からの学生や教員も多いことから、宿舎部分は個室形式中心に改装した。内外装の色は建設当時を再現することを原則とし、卒業生の記憶から決定したり、表面を削ってオリジナルを判断した。多用されていたラワンベニヤ部の修復は入

手が難しいため、代わりにシナベニヤを用い、経年劣化によってなじむ時期を待つこととした。

パーケット(寄木細工)の床部分は、フローリングやシート張りの設計であったが、極力残して使用することとした。書架などの家具も造作予定で設計したが、できるだけ既存のものを修理して再利用した。建設中も経費の縮約に努めたのは、寄付などの浄財に頼らざるを得ない宗教施設の宿命である。

大聖堂の施工精度の素晴らしさ

内外ともコンクリート打ち放し部分が多い大聖堂は、鐘楼、窓、打ち継ぎ目地などの各所から漏水が目立ち、修復に苦勞したもの、円錐形をいくつか重ねたような形状、それに沿って斜めに曲がりながら設けられた階段、地下聖堂の格子梁など、優れた型枠大工の技巧が随所にうかがえ、とても現代では実現が困難な空間に仕上がっていた。我々に課せられたのはそれらを損ねないような修復を行うことだけであった。ただ冷暖房対策のための配管と室内機を設けざるを得なかつ



南棟南面の要補修箇所

た点が残念であった。

危うかったブリーズソレイユの再建

水平と垂直に架けられていた幅の薄いPC版製のブリーズソレイユは、重みでたわんでいたり、脱落寸前のものが多くあり、危険箇所については落とさざるを得ないと見込んでいた。事実、隣の南山大学校舎では、現在かなり取り外されている。しかし取り外した場合には接続部分の補修などの手間がかかる上、デザインのバランス全体が損なわれる恐れが大であった。そこで施工者側で再検討を依頼した結果、取り付け部分の鉄筋同士の溶接が、当初からか経年で切れているところに多々問題があることが判明し、改めてはつり直して溶接し補修を施したところ、たわみも目立たなくなり、保全に成功した。

和室の要望に対応

設計時に一室を和室に改装する計画であったのだが、それは礼拝や儀式をそこで行いたいという要望が、日本への憧憬が深い神父たちから出ていたからである。建設工事中に、デザインをもう一工夫してふさわしい空間にしたいという関係者からの要請があり、自分が再検討を担当することとなった。さりとて予算アップにつながる変更もできず、そこで桂離宮の「松琴亭」を範として、壁や襖のクロス、加えて明障子を市松模様貼ること



西正面外観

大聖堂外観



とした。利用者にはかなり好評である。

外部空間の活性化策

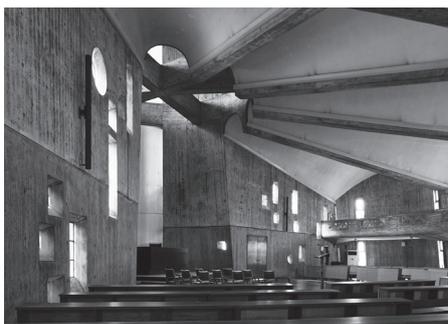
かつて神学院の東には雑木林が広がり池もあって、すばらしい景観であったとのことで、周辺の開発によって景観が損なわれたことを嘆く卒業生が多いという。

これまで生い茂るばかりで放置されていた木々は、建物にも利用者にも危険な箇所がかなりあった。高木や灌木は重点的に剪定を行い、見え隠れをなくし、剪定で排出した多量の材木を粉碎してチップとし、これも要望のあった建物周辺を巡る瞑想・散策のための小路に撒いた。

また芝生を植えられた南の園庭は、教会活動の一環でイベントなどに有効活用されることが期待されている。

神父の死に報いる

計画の初期から完成に至るまで、宗教



大聖堂内部

法人、委員会、入居者、設計者、施工者の意見調整やトラブル対応に尽力されていた川上誠神父は、工事途中から体調がすぐれないご様子であったが、竣工後、急速に衰えが顕われ、壮絶な病との闘いの末、昨年12月に天国に召された。神父の追悼ミサの際には、多くの司祭から亡き神父の最後の業績として讃える言葉が相次いだ。恐らく彼らおよび後継者の口から、殉じた神父への想いも加わり「この建物を解体しよう」という言葉は、2度と出ないであろうことを、堅く信じてやまない。

所在地：名古屋市昭和区八雲町
建設年：昭和41(1966)年3月
敷地面積：20,700㎡
建築面積：2,408㎡
延床面積：6,635㎡
構造：RC造
階数：地下2階 地上3階 一部塔屋
最高高さ：24m
設計者：レーモンド建築設計事務所
(アントニン・レーモンド F.A.I.A.)
施工者：清水建設

●耐震機能改修
建設年：平成24(2012)年7月
設計者：アルク総合研究所(小菅哲・柴田作)+谷口元
施工者：竹中工務店



ロビー

登録有形文化財

天狗総本店



建築当時の写真



現在の全景



天狗の意匠と尖塔



■紹介者コメント

天狗総本店はJR高山駅前から広小路通りを東に歩き、さんまち通りへと続く宮川にかかる筏橋のすぐ手前にある精肉店です。伝統的な和風建築が建ち並ぶ古い町並みには珍しい洋風の建物で、竣工は昭和11(1936)年、外観は一見RC造のようですが、木造2階建て、建築面積103㎡。設計は袈裟丸与三吉、大工は西田清と伝えられています。最上部には尖塔が並び、トレードマークの「天狗」と「精肉」の文字が描かれ、2階角中央部にはバルコニーが付設されています。

「天狗」は昭和2(1927)年、初代山口培次郎が営業を始めましたが、この屋号は家畜商(馬喰)をしていた山口が取引先の金沢にある大規

模精肉店の屋号を受け継いだそうです。先代5代目へのインタビューによると、昔は外壁が洗い出したかったそうですが、降雨のたびに壁が濡れ色になるのを嫌って、その昔(文化財登録前)にすべて吹き付けしてしまっただけです。この事実を悔やんだ識者の進言が多く寄せられたため、文化財登録後はなるべく建築当時の姿に近くなるよう、色を調整し、吹き付け直ししたとのこと。

窓も当時の木製開き窓からアルミ引違窓へと改修されましたが、2階角のバルコニーは当時から全く変わっていないそうで、テレビが普及する前は、ここにラジオを置き、拡声器を使ってまちの人々へ向けてラジオ中継を行っていたそうです。1階売り場も改修が行われ、街角の表情もやや変

わってはいませんが、現在も木造建屋が並ぶ街並みの中で異彩を放ち、ランドマークとなっていることには変わりません。

店舗隣りに併設される食事処「天狗」へ今回は伺えませんでした。次回はぜひその味を堪能しに訪れたいと思います。

所在地：岐阜県高山市本町1-21
登録番号：21-0031(2000年4月28日)
交通：JR高山駅より徒歩10分
TEL：0577-31-0147
営業：AM9:00~PM18:00
火曜定休



中澤賢一 | 堀内建築研究所

データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

四郷郷土資料館(旧三重郡四郷村役場)



坂を上ると見えてくるシンボルの塔



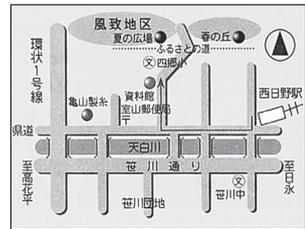
玄関 車寄せ



玄関 正面



北側高台より見下ろす全景



※パンフレットより

■発掘者のコメント

四郷(よごう)村はこれといった資源もない小寒村であったが、幕末から近年にかけて製糸・製茶・醸造・それらの関連産業が盛んになり、近代産業の発祥地として三重を代表する経済・文化栄える村となった。これら製品の輸送のため、四日市まで村の有志により県内初の私鉄(内部(うつべ)・八王子線)が敷かれたほどで、全国でも珍しい特殊狭軌のミニ電車(軌道幅76.2cm)のかわいい車両は、存続の危機にあるものの今も通勤・通学に利用されている。

明治22(1889)年の市町村制の実施と同時に四郷村が誕生し、昭和18(1943)年に四日市市と合併、高花平、笹川といった大規模な

住宅団地の開発により、現在では市最大の人口を抱える地区となっている。

四郷村役場は村の代表的な先人産業三重紡績(後の東洋紡績)の発足者伊藤傳七が郷土への恩返しにと、大正10(1921)年に6万円(現在の5億円?)の大金を寄付し建てられたものである。小高い丘陵の坂道を上っていくとシンボルの塔が青空を背景にそびえ立つ。木造2階建ての正面に車寄せと玄関があり、1階が執務室、2階が会議室や小部屋、モダンな応客用のカウンターなども当時のままに残っている。狭い螺旋階段を上ると四郷村が一望できる気持ちよさで、全国一の村役場と村民自慢の庁舎であったことがよく分かる。昭和40年代までは市の四郷支所として使われ、

新しい支所ができたために閉所、取り壊しの運命だったが、地元民の存続運動で昭和57(1982)年四日市市有形文化財に指定され、「四郷郷土資料館」として今日に至っている。

設計者は当事東洋紡のお抱え技師であった野田新作(三重県初の設計事務所開設者)を中心とする設計組織で、庁舎のほかにも工場、社屋、学校、住宅など多くを手がけたが現存していない。

所在地：三重県四日市市西日野町3375



坂本 悠 | 有理社

2013 年度予算や公益目的事業比率などを協議

本部理事・副会長 小田 義彦



公益社団法人化後、第1回目となった第211回理事会は5月7日(火)、23名の理事と2名の監事全員出席に加え、6名の次期役員(オブザーバー)と事務局3名の参加で開催された。今回は議事が盛りだくさんで、13:30開始、16:30終了予定を20時まで延長して行った。

【審議事項】

- 1) 入退会・資格喪失(事務局浅尾さん): 新規入会34名(うち東海6名)、退会26名(うち東海2名)、逝去3名(うち東海1名)、休会7名(うち東海1名)、資格喪失59名(うち東海2名)が承認され、正会員総数4,342名となった。
- 2) 新会員制度の運用に関する休会・退会の取り扱い(西勝総務委員長): 承認。休会届けは会員が自ら「会員資格停止」を願い出る形式で、従来と異なるのは7月1日以降に届けを出した場合、その年度の会費は返却しない、または未納扱い。退会も同様に、届けが7月1日以降の場合その年度会費は未納扱いとなる。
- 3) 後援名義(筒井専務理事): 11件を承認。
- 4) 会長専決による後援名義承認の取り扱い(筒井専務理事): 承認。過去に実績がある、公共団体や建築4団体(建築士会・事務所協会・建築学会・建設業連合会)への後援などで、急を要するものに関して会長専決で対応し、次回理事会に承認内容を報告する。
- 5) 支部規程・地域会規程の一部改定(小田規程類制定特別委員長): 承認。複数理事を有する支部の対応、事業計画・予算の理事会承認時期を事業年度開始までとする、地域会代表の呼称、地域会に関する事項の理事会承認範囲の変更などを改定、当日一部の訂正があったが、まとめて5月7日の日付で改定する。
- 6) 民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款委員会による小規模建築物・設計施工一括用施工等工事請負契約約款・同契約書式作成への対応(大松業務・職能委員長): 承認に至らず協議とした。七会連名で約款を出版することの審議であったが、一括と一貫の混同、小規模建物用設計契約約款(年内に目途の予定)が未出版、設計・施工分離を推進すべしなどの意見が出され、審議未了。JIAとしての意見を会長名で出す(すでに筒井専務理事名の意見書が出されている)、重要な問題として今後もかかわっていく、最終版は理事会で審議したうえでJIAも連名とする、などの条件をつけた。
- 7) 職責委員会報告(対象者5名)への対応(松永職責委員長): 対象者5名のうち1名を懲戒審査送付とする。構造一級名義を本人に無断で使用し、委員会への弁明要請にも応じず、悪質と認めたた

め。4名は、国土交通省から1～3カ月の業務停止命令を受けているが、すでに補償が済むなど実害がないため。確認検査機関は情報提供義務(通報しないと自社が罰せられる)があり、うっかりミスなどでも罰せられることを会員に周知すべきとのこと。

【協議事項】

- 1) 建築家資格制度の運営方針について(河野建築家資格制度委員長): ①オープン化に向けて規則・細則・マニュアルの見直し、改訂をする。②JIA正会員は全員が登録建築家となることを目指す。③建築士会連合会との将来的な資格の一本化に向けた話し合いを継続、できることから検討する。④建築設計監理業務の適正化と依頼者保護のための業務法令の改正・新設を目指す。今後の建築家資格制度に関する意見交換会を、機会あるごとに全国で行っていく。
 - 2) 2012年度決算案・2013年度予算案(筒井専務理事): 2012年度決算は、収入291百万(対予算13百万増)に対し支出288百万(対予算12百万増)、268万黒字となった。今年度で、利用目的が明快な3つの特別会計(国際交流・建築家資格・災害対策)を除く繰越し・積立金は取り崩しを行い、収益事業繰越赤字の清算、ベルコリーヌ関連未支払金および会報誌発行に伴う未集金を特別損失として計上した結果である。
2013年度予算は、会員数176名減176名増、未収150名分を想定、支部運営費は正会員会費の40%、表彰・卒業設計コンクール・会報誌発行・国際交流費などの削減、新会員の広報費増額、国際交流基金返済(2013年度完済)、予備費300万円を見込んだ。2013年度予算(本部は2013年度、支部・地域会は2012年度実績を合算)を基に試算した結果、公益目的比率は59.64%となった。
 - 3) 2013年度公益目的事業比率等の管理手法(筒井専務理事): ガイドライン・質疑応答集を作り、支部・地域会へも周知していくが、一定規模以上のもの、判断が難しいものの事前相談を受け付ける。窓口は筒井専務理事、副会長を中心とした事業評価委員会で協議する。外部団体との契約などの締結に関するガイドラインは別に作成するが、会長からの代理権限を受ければ、支部長・地域会長名でも契約ができ、事後報告でよいものとする。
- 【報告事項】
委員会体制再編の進捗状況報告(松本副会長)、2013年度大会(札幌)開催案内(上遠野北海道支部長)、淡路島震災対応報告(小島近畿支部長)、2013年度総会当日スケジュール、2013年度理事会開催スケジュール(いずれも事務局)などの報告があった。

東海支部役員会報告

今回ご報告する5月10日の支部役員会は、この4月1日からの公益社団法人移行を睨んでこの1年間、本部ガバナンス体系を構築する規程類、支部規約・地域会規則の制定など、一連の活発な議論の集大成を語る、支部通常総会直前の開催でした。

通常総会のオンラインは得られましたが、順次整備の新体制・諸ルールなどを含め、新法人としての実り多い活動は今後走りながら実践していくしかありません。総会では報告事項とされましたが、支部・各地域会とも、今までの自然体に加速して、2013新年度事業を広範に力強く推進することが肝要、との意を新たにしました。



鈴木利明 | 日本設計

日時：2013年5月10日（金）15：00～15：45

場所：アパホテル名古屋錦 4階「鈴鹿」

出席者：支部長、本部理事、幹事11名、監査2名、オブザーバー5名

1. 支部長挨拶

2012年度最後の役員会。この間、新法人スタートに伴う規程類など難しいテーマに対応し、今日がその締めくくりの通常総会。短時間の役員会ですが、円滑な審議をよろしく。

※進行提起：総会直前の役員会で時間も限られるため、審議事項・協議事項の実質的議事を先行し、その後一般議題に戻る。

【議事】

1. 審議事項

- ①「ARCHITECT」暑中広告掲載のお願い・各地域会 法人協力会員宛、および「ARCHITECT」残暑広告掲載のお願い・会員宛
(吉元)

→提示原案にて、ともに承認

(意見：準会員に対する呼びかけなどを再確認要/9月号で300号記念となることも視野)

- ②2013年度通常総会議案書(水野)

前回指摘事項の修正点を中心に説明・確認

(1号議案：鳥居、2～4号議案：水野、

報告事項1：鳥居、報告事項2：水野)

→通常総会議案書を承認(→直後の通常総会に配布)

(意見：3大事業+1の事業予算・決算の対象年度別、など)

2. 協議事項：なし

以上、先行議事終了、以下、従前の一般議題に戻る。

3. 報告事項

(1) 本部報告

①第211回理事会(5/7)(小田) ※理事会レポート参照。

②CPD評議会(4/25)(塚本)

③第122回建築家資格制度委員会(4/22)(植野)

登録建築家について、専門に限らない「フルオープン」の動き/JIA正会員≒登録建築家、との思いや発言について議論あり。

(2) 支部報告

①東海学生卒業設計コンクール2013 一次審査結果(吉川)

昨年は応募が43点だったが、今年は29点に留まったため、一時審査パスの点数も例年の10点程度から6点に減少し、その全数を全国コンクールに推薦することにした。

6/1に金山の名古屋都市センターにて公開審査を予定(5/28より同所にて公開展示する)。

(3) 各地域会からの報告 省略

4. その他

・「ARCHITECT」裏表紙の賛助会広告について(水野)

従前は愛知地域会の賛助会(現・法人協力会)メンバーだけ(各号4社掲載・応分負担依頼)で順送りしているが、支部全体(全地域会)で負担分散するべきとの提言があり、次回支部役員会で協議したい。

・本件は会費とは別問題だが、地域会規則による協力会会費自体は本部総会マター(運用は地域会役員会)であることを確認。

・両監査よりは特になし。

(次回役員会の日程が三重の役員会とバッティング・調整要)



尾州廻船内海船船主 内田佐七家

南知多町内海にある内田佐七家の建物は、明治2年に建てられた母屋をはじめ座敷や蔵、とてもステキなお茶室などが現存しています。この建物は、持ち主であった内田家当主から南知多町に寄贈されたのですが、私が伺ったところでは、維持管理費は内田家が負担し続けているそうです。これには正直驚きました。とても素晴らしいことです。現在は町の指定文化財となって定期的な一般公開が行われ、多くの人が訪れるようになりました。南知多を訪れた際は、一見の価値ありですよ。また、毎年、南知多町在住のアーティスト集団「空の会」がここで展覧会を開催しています。座敷や中庭などに置かれたアートと古建築の取り合わせは何とも絶妙で、毎年の楽しみとなっています。



所在地：愛知県知多郡南知多町大字内海字南側39
(問合せは、南知多町社会教育課 TEL 0569-65-2880)

銘酒「ほしいずみ」

知多半島は古くから醸造業が盛んな土地で、日本酒、味噌、醤油などをつくる会社が半島各地に点在しています。中でもお勧めなのは、阿久比町の銘酒「ほしいずみ」です。お手頃な価格ながら、ほんのりとした吟醸香があり、すっきりとした飲み口です。知多半島、とりわけ私の住む美浜町や南知多町は、沿岸で取れる新鮮な魚が豊富な地域です。私の一番の楽しみは春先に上がるコウナゴ、これを少しだけ生のまま頂くのです。甘みがあって何とも美味しく、地元だけのちょっとした贅沢なのです。季節ごとに港に上がる美味しいお魚と、美味しい日本酒の取り合わせは、私の気持ちを豊かに、そして幸せにしてくれます。



丸一酒造株式会社：愛知県知多郡阿久比町大字植大字西廻間11
TEL 0569-48-0003

地域会だより

<静岡>

- 5/13 5月静岡地域会拡大役員会・静岡地域会災害対策委員会報告会
(4/6(土)、7(日)の「みやぎボイス 震災復興シンポジウム2013」の報告) (※詳細はP9掲載)
- 6/19 6月静岡地域会役員会の開催+第1回JIA塾
(花沢の里・古民家にて、広葉樹の話と古民家見学)

<愛知>

- 5/14 愛知賛助会通常総会
- 5/17 愛知賛助会 ゴルフコンペ
- 6/12 あいちトリエンナーレ関連企画 旗揚げ有志ミーティング
- 6/17 愛知地域会・総務委員会
- 6/21 愛知地域会役員会(直前に同・幹部会)
- 7/10 住宅研究会講演会「住み開き」講師：アサダワタル氏
18:00～20:00 尼ヶ坂サロンにて

<岐阜>

- 6/5 第2回岐阜地域会役員会開催 18:30～21:00
ハートフルスクエアG小研修室にて、参加10名(山田(浩)、山田(貴)、大瀧、村山、田邊、寺下、長尾、協力会員：岡田、野村、春日)

- 6/21 「JIAの窓」18:30～21:00
COAにて
「まちづくりについての語らい」
担当：大瀧、山田(浩)
- 7/13 「岐阜建築塾2013」 13:30～15:30
岐阜女子短期大学4階大講義室(予定)
講師：宇野享(うのすすむ)氏「思考の継続と深度」
担当：村山、寺下

<三重>

- 5/17 第2回役員会・第1回例会(2013年度事業計画・予算について)
法人協力会総会
- 6/21 第2回例会(会員研修会：建材研修会)
三菱マテリアル建材(株)(法人協力会員)による最新建材情報研修会「耐力面材モイスTMの特徴と有効活用」
- 7/12 第3回役員会・第3回例会(会員研修会：森羅万象匠塾)
「穂積製材所プロジェクト」見学、ディスカッション
～穂積 亨、山崎 亮(studio-L)の取り組み～
暑気払い

JIAの公益社団法人への移行による 賛助会(協力会)※以下、賛助会の在り方

協力会通信 ⑦

神谷 勇雄 | 愛知地域会賛助会委員長



JIAの公益社団法人移行に伴い、協力会とは別に、賛助会も始動しました。愛知地域会の賛助会員数 45社(4月1日現在)。しかしながら愛知地域会賛助会は、JIA 東海支部・JIA 愛知地域会のための会です。以前と変わらず、東海支部ならびに、愛知地域会の諸事業に積極的に参加するとともに、新しい技術と情報を提供し、支援・協力を実施していきます。

支部ならびに、愛知地域会との連絡・連携充実を図るとともに、会員相互主体の活動を積極的に進めています。また、事業への積極的参加、JIA 会員との親睦・情報交換を図るものとしています。

機能的には変わりはありませんが、名称など、変更しなければならない部分もあります。

まずは全賛助会員への認知(非常に分かり難いのですが、JIAにおける協力会→JIAの約款にのっとった公的な協力会とJIA 東海支部・愛知地域会を応援する賛助会の区分の意味、ほとんどの事業は賛助会として開催)、会則の変更、JIAの事業と切り離すため賛助会としてプロダイバーの資格を取得の必要性などがあります(すでに取得済み)。

今年度の賛助会事業としては、新年懇親会、継続職能研修会(年2回)(CPD)、見学研修会(CPD)、懇親ゴルフコンペ(年2回)・JIA 全国大会への参加、JIA 愛知地域会暑気払いへの参加、JIA 各事業への参加などです。

JIA 自体の予算もますます厳しくなってきました。協力会の会費によって支部・

地域会の予算が成り立っていることもあります。

賛助会も企業としてまだまだ厳しい風に晒され、その上、「ARCHITECT」への新年挨拶、暑中見舞い、巻末の企業広告、会員名簿の広告、各事業への協賛金などの出費がかさみ、そのため会員数も年ごとに減ってきています。

今までのルーティンにとらわれず、賛助会としても協賛金や広告費などが有意義に使われることを願っています。賛助会会員はJIA 会員との交流のために、協力会に入会しています。賛助会開催事業、賛助会企業の内覧会・新製品発表の案内がありましたら、時間の許す限り積極的に参加をお願いします。

編集後記

●2年以上経った東日本大震災ですが、事あるたびに話題に上がります。私たちが震災の恐ろしさを風化させることなく、語り継ぎ、手を差し伸べなければなりません。やはり、今月号も震災の話に目がいてしまいました。

実は私も先月、浜岡原発を視察に行ってきました。中部電力の方々は万全の対策をしていると言われますが、いくばくかの不安をぬぐい去ることはできません。可か否かは立ち位置によって変わるわけですから悩ましい限りです。世代間格差もあるだろうし、どのような生活を選択するのか、議論を重ねるのが人間のなすべきことではないでしょうか。

また、今月号には南山大の神言神学院が大改修された話題もあります。当時現場監理をしていた設計担当者が記念にと、人目につかぬと思われる十字架に秘かに名前を刻み、将

来誰かが気付いてくれることを楽しみにされていましたが、今回の改修では話題にならなかったのでしょうか? そのような話が大好きな私には気がかりなところですが、見つからない程度で済んだのが幸いとも言えましょう。(藤橋盈好)

●今年も猛暑を予感させる日が多く、すでに暑さと格闘する毎日です。

さて、今月号においては、連載に加え、伝統左官技術、神言神学院の再建、歴史的建物の紹介、エネルギー社会の在り方などさまざまな話題が取り上げられ、それぞれの地域に根差した情報が盛りだくさんでした。古い建物や技術、街並みの保存、反対にこれからの時代に向かって新しいことへチャレンジしていくこと、それぞれに大切だということもいつも気付かされます。

また、「建築家会館」JIA 本部レポートは実に面白く拝読させていただきました。建築家会館の存在は知っていましたが、事務局に加えて大ホールや建築家クラブ、果てはバーま

であるとはなんと粋なことでしょう! ぜひ、伝説のバーなるものを復活していただきたいものです。紫煙を煙らせながら歴代の名だたる建築家たちに想いを馳せる…そんな姿はいつの時代でもかっこいいのではないのでしょうか。(石川英樹)

ARCHITECT

第298号

発行日 2013.7.1 (毎月1回発行)

定価 380円

発行責任者 鳥居久保

編集責任者 吉元 学

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-13-35

CSC HISAYA BLD.

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/